

衛研第1-48号
平成28年 2月24日

感染症発生動向調査事業
各関係機関の長様

埼玉県衛生研究所長

感染症発生動向調査事業週単位情報の送付について（通知）

このことについて、別添のとおり送付いたします。

担当 埼玉県衛生研究所 感染症疫学情報担当
電話 0493-59-9325
FAX 0493-59-9613
e-mail p5349952@pref.saitama.lg.jp

感染症患者発生情報（週報）

埼玉県内情報 平成 28 年 第 7 週 (平成 28 年 2 月 15 日~平成 28 年 2 月 21 日)

今週の注目される疾患

全数把握対象疾患では、一類から四類感染症(二類：結核を除く)の届出はなかった。五類感染症は、アメーバ赤痢 1 人、急性脳炎 3 人、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 人、侵襲性肺炎球菌感染症 3 人の届出があった。

定点報告対象疾患では、インフルエンザ(49.13 40.59)の定点当たり報告数は、前週より減少したが、依然として警報発令状態にある。保健所別では、坂戸(38.40 49.10)保健所管内で大きく増加し、越谷市(49.46)、草加(48.47)保健所管内からの報告が多い。年齢階級別では、全年齢階級から報告があり、10 歳未満で全体の 54.9%を占めている。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎(3.04 3.35)の定点当たり報告数は、前週より増加した。保健所別では、熊谷(4.89 6.33)及び草加(2.64 4.27)保健所管内で大きく増加し、東松山(5.00)、川口(4.94)保健所管内で多い状況が続いている。年齢階級別は、10 歳未満では 5 歳が最も多い。流行性耳下腺炎(0.86 0.87)の定点当たり報告数は、前週と同水準に留まったが、前年までの同時期より報告数の多い状況にある。保健所別では、幸手(0.78 3.11)保健所管内で大きく増加し、春日部(1.50)保健所管内からの報告が多い。感染性胃腸炎(7.46 7.13)の定点当たり報告数は、前週よりわずかに減少した。保健所別では、熊谷(13.00)、さいたま市(10.74)、川口(10.00)保健所管内からの報告が多い。眼科定点対象疾患では、急性出血性結膜炎 1 人、流行性角結膜炎 28 人の報告があった。基幹定点報告対象疾患では、マイコプラズマ肺炎 5 人、クラミジア肺炎 1 人、感染性胃腸炎(ロタウイルス)1 人、インフルエンザ(入院)22 人(前週 24 人)の報告があった。

<全数把握対象疾患の患者情報>

一類感染症	報告なし
二類感染症	報告なし(結核を除く)
三類感染症	報告なし
四類感染症	報告なし
五類感染症	アメーバ赤痢 1 人(病型 腸管アメーバ症)
	急性脳炎 3 人(病原体 インフルエンザウイルス型不明 1 人、 インフルエンザウイルス A 1 人、肺炎球菌 1 人)
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 人(血清群 A 群)
	侵襲性肺炎球菌感染症 3 人

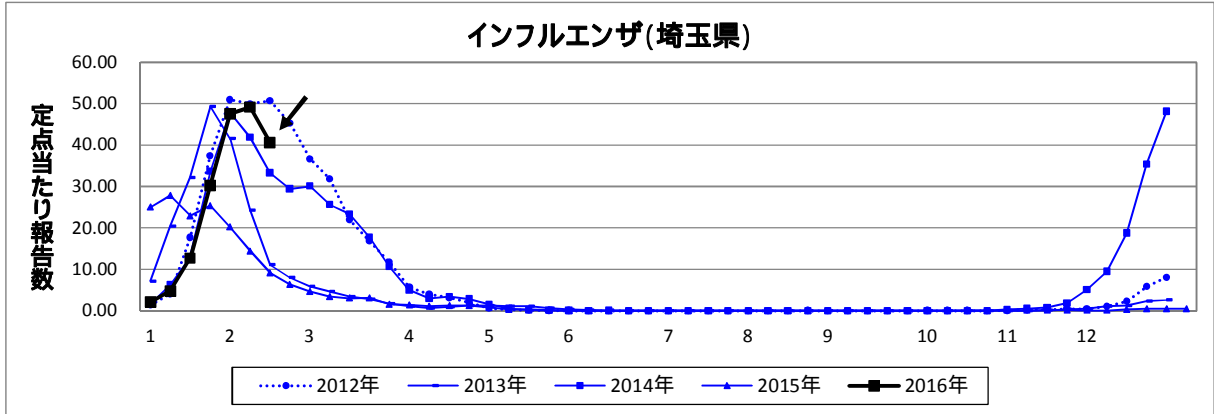
1 この情報に関する御質問・御意見等がございましたら、下記まで御連絡ください。
衛生研究所 感染症情報担当者会議(感染症疫学情報担当) TEL: 0493-59-9325 FAX: 0493-59-9613
e-mail: p5349952@pref.saitama.lg.jp URL: <http://www.pref.saitama.lg.jp/b0714/surveillance/index.html>

2 全国の感染症発生動向に関する情報は、国立感染症研究所の感染症疫学センターホームページ(URL: <http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>)で御覧になれます。

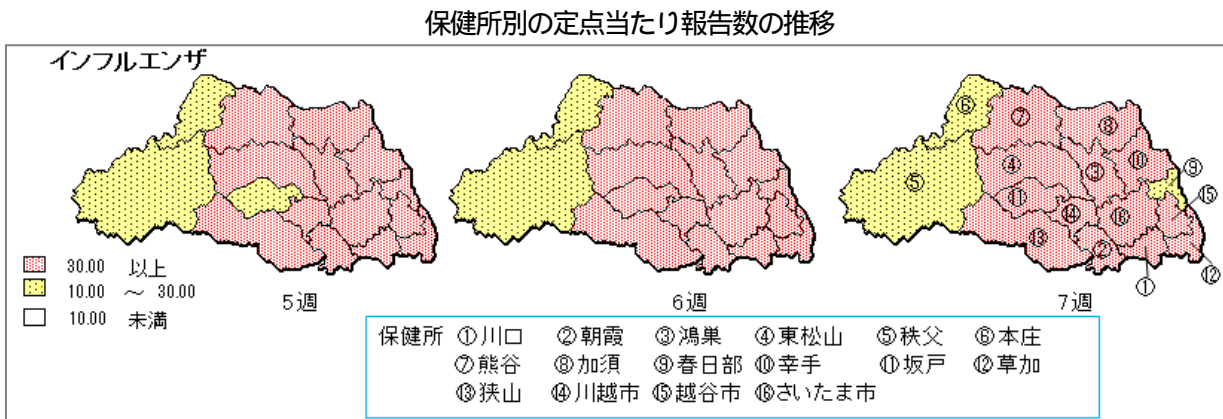
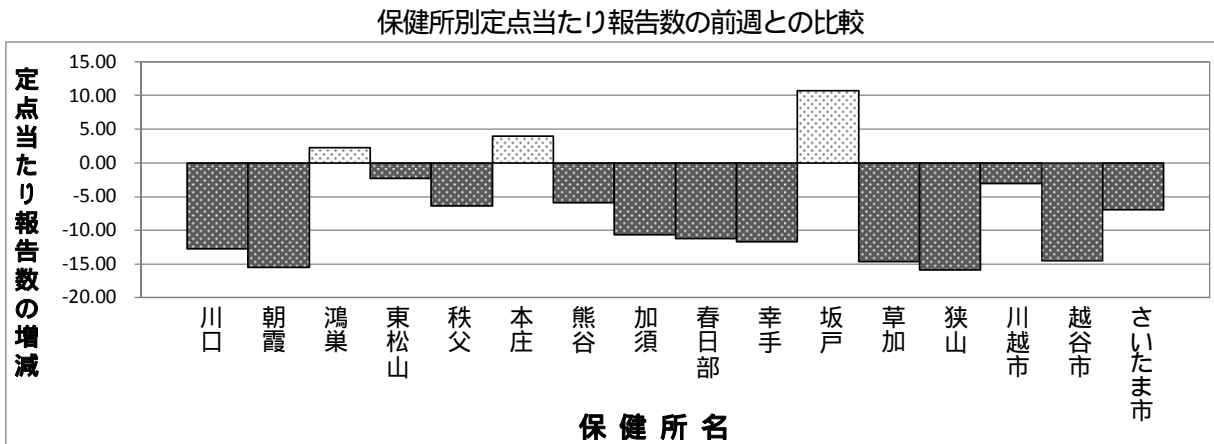
注目すべき疾患

- インフルエンザ 内科・小児科定点 -

第7週のインフルエンザの定点当たり報告数は、今シーズン初めて減少に転じたが、40.59 とまだ多い状況が続いている。



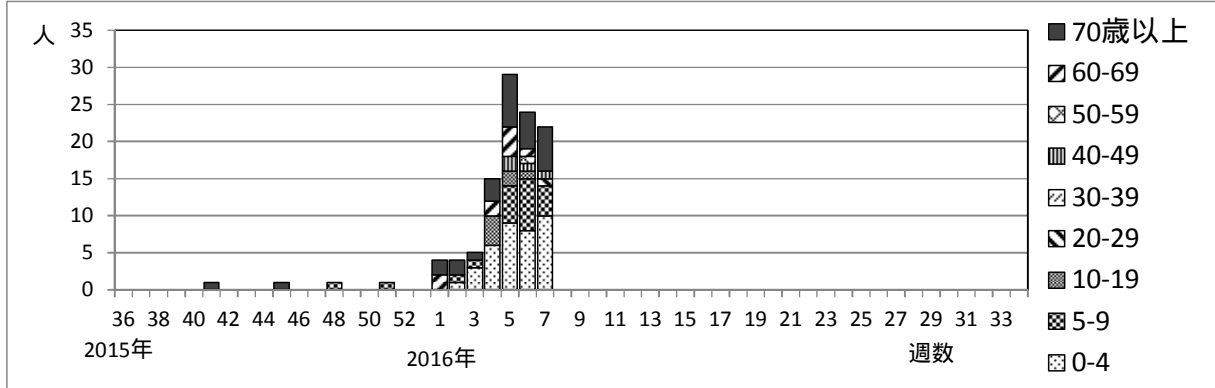
保健所別の定点当たり報告数は、多くの保健所で前週より減少したが、定点当たり 30.00 を超えた状況が3週間続いている保健所は12カ所と多い。



- インフルエンザ（入院）基幹定点 -

第7週は基幹定点（10医療機関）のうち6カ所から22人の報告があった。年齢階級別では、0-4歳が10人、70歳以上が6人、5～9歳が4人、20-29歳、40-49歳が各1人であった。

インフルエンザ（入院）の週別報告数



インフルエンザウイルス検出状況

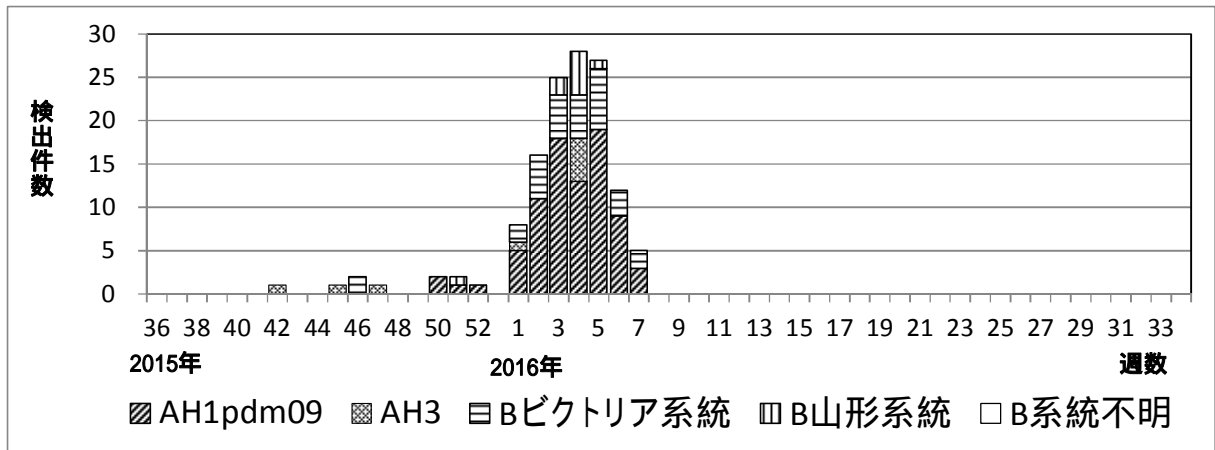
さいたま市(6人)、狭山(2人)、鴻巣(1人)、熊谷(1人)保健所管内で採取された検体から、今週新たにAH1pdm09が7件、B型が4件検出された。9月(36週)以降の検出は、AH1pdm09が82件、A香港が9件、B型が40件の計131件となった。

年齢階級別インフルエンザウイルス検出状況

2015年36週から		年齢階級								計
		0～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70歳以上	
AH1pdm09	今週検出分	5				2				7 *
	累積	57	5	1	6	7	1	3	2	82
AH3(A香港)	今週検出分									-
	累積	5	3	-	-	-	-	-	1	9
B型	今週検出分	3		1						4 *
	累積	20	12	4	3	-	-	-	1	40

* AH1pdm09とB型が重複して検出された1例を含む

検体の採取週別インフルエンザウイルス検出状況



感染症発生状況(全数把握対象疾患)
(第7週)

(2016年2月23日 15:00集計)

	今週 届出	累計	2015年 累計		今週 届出	累計	2015年 累計
一類感染症							
エボラ出血熱				ペスト			
クリミア・コンゴ出血熱				マールブルグ病			
痘そう				ラッサ熱			
南米出血熱							
二類感染症							
急性灰白髄炎				中東呼吸器症候群(MERS)			
結核*	-	-	1273	鳥インフルエンザ(H5N1)			
ジフテリア				鳥インフルエンザ(H7N9)			
重症急性呼吸器症候群(SARS)							
三類感染症							
コレラ				腸チフス		1	1
細菌性赤痢			6	パラチフス			1
腸管出血性大腸菌感染症		1	167				
四類感染症							
E型肝炎		5	7	東部ウマ脳炎			
ウエストナイル熱				鳥インフルエンザ(H5N1を除く)			
A型肝炎			16	ニパウイルス感染症			
エキノコックス症				日本紅斑熱			
黄熱				日本脳炎			
オウム病			1	ハンタウイルス肺症候群			
オムスク出血熱				Bウイルス病			
回帰熱				鼻疽			
キャサナル森林病				ブルセラ症			
Q熱				ベネズエラウマ脳炎			
狂犬病				ヘンドラウイルス感染症			
コクシジオイデス症				発しんチフス			
サル痘				ポツリヌス症			
ジカウイルス感染症				マラリア			1
重症熱性血小板減少症候群				野兔病			
腎症候性出血熱				ライム病			
西部ウマ脳炎				リッサウイルス感染症			
ダニ媒介脳炎				リフトバレー熱			
炭疽				類鼻疽			
チクングニア熱			1	レジオネラ症		7	90
つつが虫病				レプトスピラ症			
デング熱		3	13	ロッキー山紅斑熱			
五類感染症							
アメーバ赤痢	1	8	30	侵襲性肺炎球菌感染症	3	17	84
ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)		1	6	水痘*		2	10
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症		6	40	先天性風しん症候群			
急性脳炎	3	10	28	梅毒		12	103
クリプトスポリジウム症				播種性クリプトコックス症		1	7
クロイツフェルト・ヤコブ病		1	10	破傷風			2
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	5	12	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症			
後天性免疫不全症候群		5	35	バンコマイシン耐性腸球菌感染症		1	9
ジアルジア症			4	風しん			8
侵襲性インフルエンザ菌感染症			14	麻しん			2
侵襲性髄膜炎菌感染症			2	薬剤耐性アシネトバクター感染症		2	1
指定感染症	該当疾患は無し						

水痘* : 患者が入院を要すると認められるものに限る。

ウイルス性肝炎(A型・E型を除く)再掲	B型	C型	D型	その他
累計		1		

累計は診断日で集計
* 2015年累計は暫定値です。
* 結核は月単位で集計、別に掲載します。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (第7週 平成28年2月15日～平成28年2月21日)

	合計																				
	-6ヵ月	12ヵ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
インフルエンザ #1	10,311	27	111	377	426	467	719	726	777	809	654	572	1,724	409	376	673	664	346	284	121	49
合計	-6ヵ月	12ヵ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
RSウイルス感染症	25	6	9	7	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	39	1	2	3	8	6	6	4	4	3	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	540	-	-	12	15	40	56	74	70	53	60	42	81	8	29	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎	1,148	8	52	131	85	94	107	82	70	62	57	51	150	43	156	-	-	-	-	-	-
水痘	94	1	3	7	9	4	19	12	14	6	11	4	4	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病	3	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	68	-	-	2	9	8	12	11	11	5	8	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん	52	2	16	26	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	140	-	-	3	6	8	16	17	18	21	13	15	20	1	2	-	-	-	-	-	-
合計	-6ヵ月	12ヵ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
急性出血性結膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	28	2	1	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	1	2	5	6	3	5	1	-
合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎 #2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	5	-	-	3	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 #3	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(入院)インフルエンザ	22	4	6	4	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	6

表中の数値は各定点からの報告数(- : 0)

#1 鳥インフルエンザを除く

#2 真菌性を含む

#3 オウム病を除く

全国・関東情報 第5週

(2月1日～2月7日)

平成28年2月24日

インフルエンザの定点当たり報告数は第49週以降増加が続いている。都道府県別の上位3位は神奈川県(48.95)、埼玉県(47.52)、愛知県(45.24)である。基幹定点からのインフルエンザ入院サーベイランスにおける報告数は1,117例と前週と比較して増加した。都道府県別では47都道府県から報告があり、年齢別では0歳(75例)、1～9歳(468例)、10代(69例)、20代(17例)、30代(23例)、40代(35例)、50代(48例)、60代(101例)、70代(122例)、80歳以上(159例)であった。

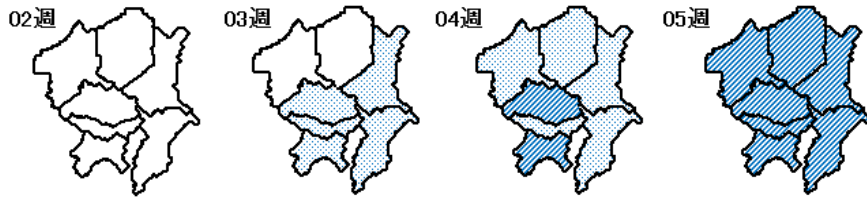
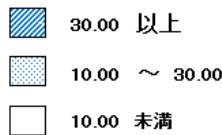
RSウイルス感染症の報告数は1,576例と第2週以降減少が続いている。年齢別では1歳以下の報告数が全体の約76%を占めている。咽頭結膜熱の定点当たり報告数は2週連続で減少した。都道府県別の上位3位は鳥取県(1.26)、島根県(1.17)、佐賀県(1.17)、鹿児島県(1.15)である。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は第1週以降増加が続いており、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してかなり多い。都道府県別の上位3位は鳥取県(9.00)、山形県(8.70)、静岡県(7.43)である。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は2週連続で減少した。都道府県別の上位3位は愛媛県(14.41)、熊本県(14.24)、大分県(13.94)である。水痘の定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位3位は沖縄県(0.94)、大分県(0.89)、長崎県(0.77)である。手足口病の定点当たり報告数は減少した。都道府県別の上位3位は富山県(0.48)、岐阜県(0.13)、滋賀県(0.13)、青森県(0.10)である。伝染性紅斑の定点当たり報告数は第2週以降減少が続いているが、過去5年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は秋田県(2.31)、山形県(2.13)、和歌山県(1.71)である。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は減少したが、過去5年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は石川県(3.48)、宮崎県(2.72)、沖縄県(2.71)である。

マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位3位は福岡県(2.00)、奈良県(1.83)、鳥取県(1.60)である。感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)の定点当たり報告数は第1週以降増加が続いている。30都道府県から170例報告があり、年齢別では0歳(15例)、1～4歳(116例)、5～9歳(34例)、10代(2例)、60代(1例)、70歳以上(2例)であった。

<関東情報>

インフルエンザの定点当たり報告数は、1都6県すべてにおいて警報開始基準値30.00を超えた。

インフルエンザ



平成28年 05週

	全国	関東地域	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県
インフルエンザ #1	報告数 171,570 定点当たり 34.66	64,306 42.64	4,513 37.61	2,404 31.63	2,983 31.40	11,880 47.52	9,566 44.91	16,365 39.43	16,595 48.95
RSウイルス感染症	報告数 1,576 定点当たり 0.50	213 0.23	9 0.12	13 0.27	26 0.45	27 0.17	29 0.22	67 0.26	42 0.20
咽頭結膜熱	報告数 1,203 定点当たり 0.38	225 0.24	22 0.29	9 0.19	20 0.34	49 0.32	26 0.19	64 0.25	35 0.16
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	報告数 11,459 定点当たり 3.63	3,262 3.45	183 2.44	138 2.88	293 5.05	475 3.06	648 4.84	880 3.37	645 3.00
感染性胃腸炎	報告数 23,850 定点当たり 7.55	7,636 8.07	678 9.04	265 5.52	416 7.17	1,356 8.75	999 7.46	2,203 8.44	1,719 8.00
水痘	報告数 1,249 定点当たり 0.40	417 0.44	26 0.35	13 0.27	25 0.43	90 0.58	51 0.38	123 0.47	89 0.41
手足口病	報告数 108 定点当たり 0.03	15 0.02	2 0.03	-	-	2 0.01	1 0.01	7 0.03	3 0.01
伝染性紅斑	報告数 1,848 定点当たり 0.59	374 0.40	24 0.32	25 0.52	25 0.43	107 0.69	74 0.55	76 0.29	43 0.20
突発性発しん	報告数 1,209 定点当たり 0.38	361 0.38	13 0.17	16 0.33	23 0.40	63 0.41	43 0.32	115 0.44	88 0.41
百日咳	報告数 38 定点当たり 0.01	5 0.01	-	-	4 0.07	-	-	-	1 0.00
ヘルパンギーナ	報告数 54 定点当たり 0.02	10 0.01	1 0.01	2 0.04	-	1 0.01	1 0.01	4 0.02	1 0.00
流行性耳下腺炎	報告数 2,365 定点当たり 0.75	615 0.65	51 0.68	22 0.46	17 0.29	146 0.94	121 0.90	147 0.56	111 0.52
急性出血性結膜炎	報告数 7 定点当たり 0.01	2 0.01	-	-	-	2 0.05	-	-	-
流行性角結膜炎	報告数 490 定点当たり 0.72	173 0.86	23 1.35	14 1.17	7 0.50	23 0.56	20 0.61	21 0.55	65 1.41
細菌性髄膜炎 #2	報告数 2 定点当たり 0.00	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	報告数 14 定点当たり 0.03	3 0.04	1 0.08	-	-	-	1 0.11	1 0.04	-
マイコプラズマ肺炎	報告数 263 定点当たり 0.55	51 0.61	9 0.69	6 0.86	9 1.13	5 0.50	7 0.78	14 0.56	1 0.09
クラミジア肺炎 #3	報告数 6 定点当たり 0.01	2 0.02	-	-	-	1 0.10	-	1 0.04	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	報告数 170 定点当たり 0.36	8 0.10	-	1 0.14	3 0.38	1 0.10	1 0.10	3 0.12	-

#1 鳥インフルエンザを除く

#2 真菌性を含む

#3 オウム病を除く

(-0.00)

感染症発生動向調査 2016年

[感染症の流行状況 2016年 第1週](#)

[感染症の流行状況 2016年 第2週](#)

[感染症の流行状況 2016年 第3週](#)

[感染症の流行状況 2016年 第4週](#)

[感染症の流行状況 2016年 第5週](#)

[感染症の流行状況 2016年 第6週](#)

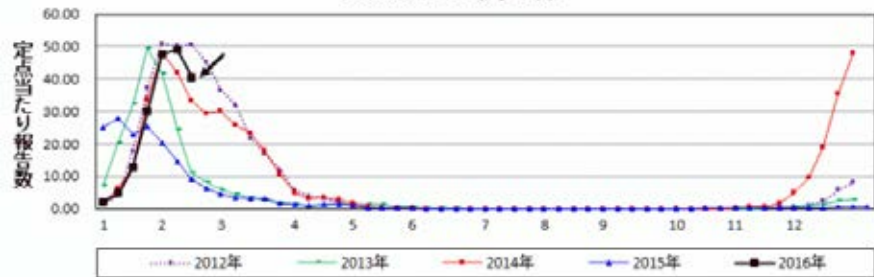
感染症の流行状況 2016年 第7週

2016年7週（平成28年2月15日～2月21日）の要点 平成28年2月24日

インフルエンザの定点当たり報告数は、前週と比較し減少しましたが、多い状況が続いています。外出後の手洗い・うがいとともに、十分な休養をとるよう心がけてください。また、お子さんの体調がすぐれない時は、医療機関に電話で相談の上、早目に受診してください。

- [インフルエンザに関する情報はこちらをご覧ください。](#)
- [麻疹に関する情報はこちらをご覧ください。](#)
- [風しんに関する情報はこちらをご覧ください。](#)

インフルエンザ(埼玉県)



感染症流行状況

疾患	推移	流行状況	疾患	推移	流行状況
インフルエンザ	↓	★★★	伝染性紅斑	→	★★
RSウイルス感染症	→	★	突発性発しん	→	★
咽頭結膜熱	→	★	百日咳	→	★
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↑	★★★	ヘルパンギーナ	→	★
感染性胃腸炎	→	★★	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	→	★★
水痘(みずぼうそう)	→	★★	急性出血性結膜炎	→	★
手足口病	→	★	流行性角結膜炎	→	★★

*1.推移、流行状況は、県内全域の傾向です。 *2.推移は2週間前からの傾向を示します。(→:増減無し、↑:増加、↓:減少) *3.流行状況は今週の流行を示します。(小さい←★、★★、★★★→大きい)

疾患名をクリックすると、各疾患の流行状況のグラフがご覧いただけます。

全国の感染症発生動向状況については、国立感染症研究所のホームページ「[感染症疫学センター](http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html)」(アドレス <http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>)で閲覧いただけます。

この情報は毎週水曜日に更新する予定です。ただし、祝日等により変更の場合もあります。



埼玉県のマスコット コバタン